



2024年9月13日に開催された

2024年度第4回理事会(臨時)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●役員担務について

- ・理事の担務の変更については以下のとおり。

國分裕之 専務理事（新任）

内藤拓也 ハイパフォーマンス本部本部長代行を兼務

矢島久徳 出向契約終了により辞任（出向元の東レアローズ(株)へ帰任）

- ・専務理事就任にあたって、SVリーグとJVLの理事会にて専務理事に推薦される事を確認した。双方利益相反が発生した場合に都度理事会へ報告する。
- ・矢島氏が兼務していたSVリーグの理事も帰任に伴い辞任した為、業務執行理事会で代わりに金川理事に依頼する。

【決議事項】

提案のとおり、専務理事就任とハイパフォーマンス本部本部長代行の兼務について承認する。

●名誉顧問の推薦について

- ・辻本憲三氏を名誉顧問に推薦する。
- ・定款で定めている名誉顧問の任期は「会長の任期に合わせて2年」として提案する。都度会長に就任された方が継続の意思を確認する事とする。

【決議事項】

提案の通り、辻本憲三氏の名誉顧問への就任を承認する。

【補足事項】

- ・以下の2点を考慮した上で理事会での承認となった。
 - バレー界が低迷した時に救済してくれた実績
 - 現会長への多大なアドバイスをいただけている現状

●危機管理規程の新設について

- ・危機管理規程について新規規程として提案する。
- ・ガバナンスコードの適合性自己説明で、危機管理規程を上期までに策定し、理事会承認を経て施行することとしている。
- ・他NFの規定、JOCの法務サポートのアドバイスを踏まえて今回の規程を作成した。
- ・情報通報者から会長に向かうレポートラインとし、危機管理対策室は危機が発生した都度設置し、運



営していく流れとする。

【決議事項】

提案の通り、規程の新設を承認する。

【補足事項】

- ・指摘のあった箇所の資料修正を行う。
 - COVID-19 → パンデミックレベルの感染症
 - 通報体制について、誰かしらがない時（役職的にいない又は連絡が取れない）でも情報がとまらない様にする。

●委員会の名称変更および設置について

- ・以下の4つの委員会名称の変更と委員会・ユニットの新規設置を提案した。
 - 中期経営計画推進委員会の名称を「中期経営計画進捗管理委員会」への変更。
 - 国際渉外委員会の名称を「国際渉外諮問委員会」への変更。
 - 加盟団体審判委員長の名称を「全国連盟審判委員長」への変更。
 - 加盟団体競技委員長の名称を「全国連盟競技委員長」への変更。
 - ブロック指導普及委員長の新設。
 - 発掘育成ユニット（ビーチバレー本部）の新設。
- ・委員会委員の選任は、業務執行理事会に権限移譲されているので選任済。

●女子日本代表チームへの報奨金の支給について

- ・女子日本代表チームがオリンピック出場権を獲得したため、規程に則り報奨金を支給する。
- ・世界ランキングでのオリンピック出場権を獲得するルールが今回のオリンピックからの為、HP本部内で検討の結果、オリンピックに出場したメンバー（リザーブメンバー含む）13名に支給する提案になっている。
- ・支給額は、男子日本代表と同額の選手一人あたり100万円。
- ・規程が現状と合致していない点がある為、出場権獲得での支給を継続するかどうかも含めて今後見直しを行う。

【決議事項】

提案のとおり、報奨金の支給を承認する。

●報酬委員の交代について

- ・工藤監事が退任された為、関口監事を新たに報酬委員会の委員として推薦した。
- ・委員の女性比率から少なくとも2名の女性委員が必須となる事を考慮して提案した。

【決議事項】

提案のとおり、委員の交代が承認された。



<報告事項>

●組織の方針案について

JVA が財団法人時代はブロック理事長・都道府県の代表が評議員会又は理事会に入って運営してきた経緯がある。公益財団法人へ移行した際に、当時の文部科学省に示された役員の人数方針に従う形で（公益での）法人格をスポーツの中央団体として最初を取得しスタートした。その後、いくつかの中央競技団体でガバナンスの機能不全があり、スポーツの価値を毀損する様な不祥事が発生し、スポーツ庁ガバナンスコードを制定された。ガバナンスコードに沿ったかたちで JVA も所々の体制・規定の見直しはなされてきた。

しかし、他競技団体では、評議員の数を文科省が示した見本通りではなく、運営に即した人数として現在の現状がある。JVA も円滑な運営を作り出すために、都道府県協会・全国連盟といった加盟団体の方々に JVA 組織の根幹部分に参加いただきたい。JVA と都道府県協会との協力体制、資金面での支援と関係性、SVL・JVL への都道府県協会の関わり方等、問題を解消するためにも、加盟団体からの意見をきちんと吸い上げること、JVA の方針を都道府県協会にしっかりと理解してもらう仕組みを構築したい。そのために、全国ブロック理事長会の組織をより重要視していく。JVA の組織は、評議員会・理事会・業務執行理事会・ブロック理事長会・加盟団体・委員会・事務局で構成されている。それぞれのレポートラインをしっかりと決めていく事で組織としてフォローできる体制を整えていくことが、今回組織改革を行う大きな目的である。

[評議員会]

評議員は現在、24 名の構成になっている。評議員会の構成としての位置づけは、JVA として「15 名から 25 名」と定款に範囲が定められている。変更案では、「都道府県協会の代表者 47 名、全国連盟の代表者 10 名、その他は法務、会計、経営/ガバナンス、他 NF/スポーツビジネス、学識経験者」といった方々で構成し、総数 66 名を想定している。女性比率と外部比率は各 NF で設定可能で、実務に合致した人数構成で進められるという事は確認が取れている。当面の間はこの人数枠で進めようと考えている。

[理事会]

中期経営計画にならって、代表強化、競技普及、マーケティング、そして社会貢献や組織改革という部門でそれぞれが担当する形にしたい。専務理事のポストを新たに加えた業務執行理事体制とする。全国ブロック理事長会の代表理事長と副代表理事長の 2 名を理事の構成メンバーに加え、ブロック理事長会で意見を集約いただき、理事会に反映できる仕組みとする。SVL の代表の参加を考えている。アスリートの属性については、ガバナンスコードの定め通り、アスリート委員会から委員長も含め、アスリートの意見を理事会に反映させていく。その他、経営・ガバナンス、会計、マーケティング、法務、他 NF・スポーツビジネス、学識経験者などの外部有識者を加え、現状案としては 19 名定員とし、外部 1 枠は属性のバランスを見て、選定委員の判断で理事会に推薦いただけるように考えている。

全国ブロック理事長会の正副代表ブロック長 2 名に理事として参画いただく想定としているが、残り



のブロック理事長7名と、競技・審判規則・指導普及の委員長3名を運営委員（理事会での決議権はないが構成メンバー）での参画という形を考えている。ブロックの代表が理事会に参加することにより、理事会とブロック理事長会の連携、ブロック理事長会と都道府県協会との連携を行い、レポートラインを確立していく。

組織案については、今後、評議員会からのご意見も踏まえて、さらに精査を重ね、10月の理事会で決議事項として提案したい。

●役員候補者選定規程の改定案について

評議員の構成における定数の問題は、理事会の属性や定数の問題にも連動して関わってくるため、現在、修正している段階のものを示している。「第4条：外部有識者」、「第10条の3項および第15条の3項には委員長は外部に属する者が務める」などはガバナンスコードに伴って改定の可能性もしくは内容を反映していく。その他、大きな変更点としては、職員と業務執行理事の兼務解消における変更点が含まれており、第10条の2項に、外部委員の推薦は、この法人の会長、副会長、業務執行理事、事務局長という形で進めてきていたが、事務局長を専務理事に入れ替えている。組織の方針が固まり次第、追加で修正させていただく。

●今後の増収施策および支出削減案策定スケジュールについて

2025年度の予算案策定のためにどのように進めていくべきか、現状の各本部の事業の棚卸、あるいは収入・削減案について事務局職員、理事の方々よりアンケートを頂戴している。最終的には12月ごろに、キャッチボールしながら、2025年度の予算策定するために、準備を進めている。

●職務執行報告書の様式変更について

中期経営計画あるいは事業計画に基づいた形での様式変更になった。10月の定例理事会で行われる第2四半期の執行報告より導入していく。

●評議員懇談会の位置付けについての評議員会での審議結果

評議員懇談会について、評議員議長からワーキングタスクフォースを評議員の中で作って継続審議したい旨の話があった。9月27日に評議員懇談会があるので、もう1度理事会で以前指摘いただいたものを確認していきたい。

●会長／理事候補者選定委員会の委員選出の確認について

2025年の理事改選に向けて、10月の理事会で会長候補者選定委員会の設置を行う。委員会は、評議員2名、理事・外部有識者から2名、監事から1名、事務局長といった構成になる。それ以外の属性として、外部委員の方を1名、会長候補者選定委員会の委員として選任しなければならない。規程では、女性委員が必ず3名入らないといけないルールである。評議員からは2名選任いただくが、原則、過去に



において選定委員を務めている方は、同時に兼ねることができないため、今回は2名とも男性の方が選任される予定。女性委員の選出という観点からすると、理事2名の内1名は坂本理事・監事については関口監事をお願いしなければならない。最後に外部委員は、会長、副会長、業務執行理事が協議のうえ推薦するが、女性の方を選任することになる。残りの理事の1枠については、自薦・他薦の確認を経て、石塚理事が就任いただくことの内諾を得た。10月の理事会で正式に承認される。

●組織基盤改革プロジェクトの進捗報告について

組織基盤改革プロジェクトは最初法人化プロジェクトとしてスタートし、加盟団体の法人化取得を一番に掲げている。これは当初の目標通り、2027年度までに完了する様に現在都道府県協会の方々を話しを進めている。その段階で出たのが財政確保という点になる。安定した財政基盤の確立が必要なため、登録制度を今一度見直す必要があるという事で作業を進めている。現時点で都道府県協会含めてJVAのMRSシステムを使った登録料の徴収と都道府県協会が別途徴収している登録料がある。それをアンケートで確認した。その中で他の競技団体と比較すると金額的に低水準な所があり、今回、登録制度の金額水準を他の競技団体レベルまで引き上げることを想定し、まずは安定的な財源・財政基盤の確立を目指す。今期はまずこういった形で登録料の値上げをするのかというところの方針を策定し、固めている。次回の10月の理事会では、バレー界の財政基盤の確立として登録制度の見直しについて方針決議をいただくよう資料を準備したい。

●国際渉外諮問委員会の進捗報告について

国際渉外諮問委員会の位置づけとしては、理事会の諮問機関として、執行部門への提言を行う。目的は、今後、国際大会の開催地選定を含めたFIVB、あるいはバレーボールワールドとの交渉。FIVB、AVCとの会議報告共有、関連する様々な規程が変わっているので、定期的に確認をしていく。メンバーは鈴木理事を委員長とし、副委員長に國分専務理事、そして委員に金川副会長の3名で構成されています。陪席として関連部署の事務局メンバーも含めて進めていく。任期は次期の理事改選時までとなっており、開催頻度につきましても上期・下期に1回の定例会議を開催する。

●コンプライアンス委員会の処分決定

対象者カテゴリー	対象行為者	資格	違反行為	コンプライアンス処分決定
愛知県内小学生クラブ 男子バレーボールチーム	監督	公認バレーボールコーチ1	暴力行為	資格停止8か月
神奈川県内小学生クラブ 女子バレーボールチーム	監督	公認バレーボールコーチ1	暴言・暴力行為	資格停止9か月



愛知県内小学生クラブ 女子バレーボールチーム	監督	公認バレーボール コーチ 1	暴言・暴力行為	資格停止 9 か月
愛知県内小学生クラブ 女子バレーボールチーム	コーチ	公認コーチング アシスタント	—	処分審査に付さない
千葉県内高等学校 男子バレーボール部	顧問	公認バレーボール コーチ 1	暴力行為	資格停止 20 か月
千葉県内大学 男子バレーボール部	監督	公認バレーボール コーチ 4	暴力行為	資格停止 14 か月

23 年度が 93 件受けつけたうち JSPO にあげてるものが 41 件、今回の JSPO 処分決定 9 件の内 6 件が今回の報告対象案件である。21 年度から 22 年・23 年と急激に増加している。これは JVA が WEB の通報フォームによる体制を整備した事が根本にある。地域・カテゴリーもばらつきがあり、暴力・暴言というところでは JVA が目指す暴力根絶全廃に向けてはまだまだ努力が必要という状況。

課題としては、JVA が受け付けたのが約 1 年半前の 2023 年の 3 月であった案件は、その後 2,3 か月で JSPO に提案する形で戻しているが、JSPO の最終裁定が決まっているのが 1 年かかっている。受け付けてから最終処分決定までが異様に長いというタイムラグを今後どうしていくのか、コンプライアンス委員会の中でもいくつかアイデアが出ている。ただ、それが実現可能かという問題もある。その他、JVA が提案した処分内容と JSPO が決定した処分内容にレベル感が違うというところがあり、ここの差を分析して、JSPO に合わせていくのかを、少し経験を積みながら整合性を取っていく様な形を目指していきたい。

●パリ五輪の総括について

●男子日本代表チーム

- ・男子チームの最終結果は 7 位で終了した。
- ・イタリア戦では接戦であったが、あと一点がとれずに逆転負けとなった。
- ・メダル常連国との差はオリンピックという大舞台での経験不足だと実感している。
- ・ロサンゼルス五輪まで、様々な課題点をクリアしメダルを狙えるチームを作っていきたい。

●女子日本代表チーム

- ・女子チームの最終結果は 9 位で終了した。
- ・五輪予選で出場切符が取れず、2024 年の VNL で準優勝しオリンピックの切符を勝ち取った。
- ・VNL 終了後、パリ五輪の開幕まで 1 か月という短期間であったことが、コンディション作りの難しさを感じた。
- ・結果を真摯に受け止め、強いチームを築いていきたい。



●女子ビーチバレーボール

- ・女子代表チームの結果は9位で終了した。
- ・東京五輪後の重点強化策の成果があり、日本の女子ビーチバレーボール界にとっては16年ぶりに自力での五輪出場権の獲得に加えて、24年ぶりの決勝トーナメントの出場となった。今後もメダル獲得のために精進したい。

以上